

飛鳥びと

2026年
秋・冬号
No.23

p2 スペシャルインタビュー

世界遺産と暮らす 飛鳥びと

p6 令和あすか塾《特別寄稿》丹羽 恵二

特別史跡山田寺跡と 蘇我倉山田石川麻呂

p7 ゆかしき言の葉

「藤原京遷都」井上 さやか

「飛鳥・藤原まるごと博物館検定」合格への道
『「上級編」1人目の合格者に聞く!』橋本 厚

題字／鳥頭尾 精
写真／「晩秋の飛鳥川」久保 俊哉
「明日香路を写そう写真コンクール」第42回入選作品

活動報告

飛鳥駅前サポーターによる 「花修景事業」を実施



「飛鳥の玄関口である駅前をお出迎いの場に」を合言葉に、飛鳥駅前サポーターの皆さんが毎月第2・4月曜に修景活動を行っています。近隣の方だけでなく、大阪から電車で駆けつけてくれる方も。季節の花苗の植栽をはじめ、案山子や顔出しパネルの設置を行っています。また年に1回、地元住民や高取国際高校の生徒たちと除草作業や植栽を行っており、今年は7月5日(日)に計41名で行いました。昨秋から「秋の七草」も育成中です。『万葉集』にも登場する秋の七草を探しに、ぜひ飛鳥にお越しください。



駅前の景観向上だけでなく、いろんな方との交流の場にもなっています。



今年も6月にコキアを植栽。秋に赤く色付いてくれるかな。お楽しみに。

活動報告

飛鳥応援大使主催「凧揚げ大会」と 「世界遺産登録セレモニー」を実施



表彰式ではみんな笑顔で賞状をもらい記念撮影。



世界遺産登録を祝う有志メンバーの皆さん。

事務局より

これからも飛鳥とともに

皆さんの悲願であった「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録がこの7月26日に決まりました。2007年にユネスコの暫定リストに記載されてから20年近くの歳月が流れ、その間、多くの方々が登録に向けて様々な形で努力され、その結果、地元の機運も盛り上がり、今回の登録につながったと思います。本当におめでたいことで、皆さんとともにお祝いしたいと思います。

そして古都飛鳥保存財団も設立来55年、飛鳥地方における歴史的風土や文化財の保存・活用を図るため行ってきた様々な活動が飛鳥文化の向上発展に寄与し、微力ながら世界遺産の登録の一助になったのではないかと考えています。そしてこれから益々飛鳥が注目される中で私たちは何を担うべきなのでしょう。それは財団が設立された時の原点からぶれるこ

となく、日本人の心のふるさとである飛鳥の風景、風土の素晴らしさを守ることであります。そしてその素晴らしさは実はそこに暮らす人々の生活や生業(なりわい)、そして行事などの地域の取り組みによって守られていることを、これからも多くの人たちに伝えていくことが財団に課せられた使命であると思っています。
(古都飛鳥保存財団 常務理事 田中充)

活動報告

高松塚壁画館で企画展 「飛鳥・藤原の宮都」を開催

高松塚壁画館では毎年、夏・冬に企画展を開催しています。世界遺産に登録された「飛鳥・藤原の宮都」は3つの分野で構成され、当館ではこれまで2つの分野を企画展で紹介。今夏の企画展は「飛鳥・藤原の宮都 墳墓について」をテーマに、高松塚古墳など6つの構成資産について解説しています(9月中旬まで)。また今年もナイトミュージアムを実施。館内での壁画発見時の再現体験だけでなく、大阪芸術大学未来創造デザイン研究会が考案した謎解きの要素も加わり、充実した内容になりました。来年もぜひ楽しみにしておいてください。



懐中電灯の明かりだけで石槨模型の中を覗いて当時の壁画発見を追体験できます。



高松塚古墳

Panasonic



発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団

〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1 TEL:0744-54-3338 FAX:0744-54-3638 E-mail:info@asukabito.or.jp

編集制作／合同会社EditZ

※本誌の記事、写真の無断複写・転載を禁じます。※本誌記載内容は2026年8月現在のものです。

公式HP



公式Instagram



KOTO_ASUKA

世界遺産登録「飛鳥・藤原の宮都」

世界遺産と暮らす 飛鳥びと

2026年7月26日、「飛鳥・藤原の宮都」が
世界文化遺産に登録されました。

中学生から百歳超えのおばあちゃんまで、
年齢や立場が異なる

「飛鳥びと」9人にインタビュー。

世界遺産に登録されたことで変わったこと、
変わらないこと、そして
これからへの想いをお聞きしました。



甘樫丘から飛鳥の里
を望むと、ビルも工場
もありません。ここに
二千年以上前から人が
住み、歴史をつくってき
ました。

私が青年のとき、明
日香法の話が持ち上が
りました。飛鳥の保存
のために何万という人たちが関わり、
この特別法が成立しました。決して
天から降ってきたわけではありません。
当時、総理大臣の佐藤栄作氏や昭和
天皇も甘樫丘に登られ、飛鳥保存財
団もできました。今回の世界遺産登
録も、これまでの歩みがあったからこ
そです。

神様がいたから 都が造られた

広い日本の中で、な
ぜ飛鳥に都がつくれ
たんでしょうか。それ
は国や皇室を守護し、
国民をあたたく照ら
す神様がこの「鳥形山」
に鎮まっているからです。
だからこの地で国造り
も進みました。この神
様は鳥の姿になってあちこち飛びま
す。それゆえ、この地を「飛鳥」といいます。
今秋には参集殿も完成し、日本最
大の御神鏡を安置します。飛鳥が脚
光を浴びるとき、皆さんにご覧いた
だけるのは嬉しいのです。参拝者の方
と話をしたり笑ったり。これからも
そんな神社にしていきたいです。



あすかにいますじんじゃ
飛鳥坐神社
名誉宮司 飛鳥弘文さん
飛鳥の守り神として古代から
鎮座する飛鳥坐神社。87代
目宮司の飛鳥弘文さんは、こ
れまで明日香村唯一の神職と
して、村内にある30以上の社
を50年間守ってきました。今
春、名誉宮司に就任。



飛鳥寺は日本で最初の本格的仏教寺院。

世界遺産の登録は 村人の努力の賜物

世界遺産の登録名は「飛鳥寺跡」で
すが、本来は「今の飛鳥寺を含む旧境
内」という方が正しいかなと思います。
「跡」となると、じゃあ、今あるこの
お寺は何？ってなりますもんね(笑)。
飛鳥寺は鎌倉時代から衰退しま
すが、ご本尊の飛鳥大仏は1400年
前からずっと同じ場所におられまし
た。1400年間、誰かが手を合わせ、
信仰が続いてきたお寺です。

ちなみに、世界遺産は土地や建造
物などが対象なので、飛鳥大仏は対
象外なのですが、石の台座は飛鳥時
代のままなので、台座だけ世界遺産
なんです。

今回、世界遺産に登録されたこと
で、世界中の方に知っていただけの
は大変ありがたい一方、個人的には、
日本国内の方にあらためて飛鳥に着
目してもらえたらと願っています。



飛鳥寺
住職 植島寶照さん
飛鳥寺は、推古4年(596)、
蘇我馬子が創建した日本
初の本格的寺院。このた
び、飛鳥寺を含む旧境内
「飛鳥寺跡」が、「飛鳥・
藤原の宮都」の構成資産
として世界遺産に登録さ
れました。

特に飛鳥の景色ですね。当たり前
に残っているのではなく、歴史的景観
と自然を守るため、1980年に施行
された「明日香法」のおかげです。50
年間、明日香村の人たちが大変な苦
労をして守ってきたからこそ、この景
色が残った。そのことをもつと、皆さ
んに知ってもらいたいです。

世界遺産登録はご褒美かもしれま
せん。多くの人の努力が報われた金
看板のような気がします。

明日香村の皆さんには、自分たち
が住んでいる場所が世界遺産になっ
たこと、そのくらい価値のある場所で
生まれ育ったことを誇りにしてもらえ
らと思います。

飛鳥寺はこれからも、お寺本来の
在りようを求め続けていきたいと考
えております。

目の前が石舞台古墳でした



御年101歳のご長寿
奈田 文枝さん
大正14年(1925)に明
日香村の近隣で生まれ、
100年間、明日香村を
見続けてきた奈田文枝さ
ん。現在も明日香村でお
元気に暮らしています。

思い入れがある場所ですか？ それ
なら石舞台古墳ですかねえ。家が石
舞台古墳が見える場所にあるん
ですよ。50年ほど前に明日香村地域振
興公社(当時)のスタッフとして、石舞
台古墳の清掃の仕事をしていました。
石舞台古墳も、昔はただ石がばつんと
あるだけで殺風景でしたし、柵もな
くて出入りも自由でした。石舞台の
上に子どもたちが乗って遊んでいた
ということも聞いたりしましたが、私は
乗ったことはありません(笑)。

それと、高松塚古墳でもスタッフと
して、清掃作業をしていたんです。そ
のときは古墳の上に登っ
ていました。石室の穴
から壁画も見ましたよ、
飛鳥美人。高松塚古
墳も昔は殺風景でした
が、随分ときれいな
りましたね。

まさか世界遺産に登
録されるなんて、昔は
夢にも思いませんで
した。本当にありがたい
ことです。

「許された無断撮影1970年」瀧川恵清
(写真提供：飛鳥資料館)





飛鳥のよさを教えてくれた「明日香学」



図書室に設けられている
明日香学コーナー。

「明日香学」とは
明日香村教育委員会が2003
年度から行う幼・小・中一貫教育。
生まれ育った地域を知り、
学び、理解する郷土学習です。

聖徳中学校3年生
荻野 友里さん
辰巳 奈乃さん

明日香村唯一の中学、聖徳
中学校3年生で、生徒会会長の
荻野友里さん(左)と副会長の
辰巳奈乃さん。幼稚園児から
中学3年生まで10年以上に
わたって明日香村独自の学習
「明日香学」を学んでいます。

荻野 友里さん
幼稚園では明日香にちなんだ歌詞
で「となりのトトロ」の替え歌を歌った
り、小学生では、明日香の自然や文化
歴史について学びました。中学2年
生になると全生徒が分科会に入ります。
私たちは明日香村伝承の琴「八
雲琴」を学んでいます。2年間練習し
ていますが、難しいです。子供の頃
から史跡や古墳があるのが当たり前
ですが、明日香学でより深く知れて
とてもよかったです。

辰巳 奈乃さん
小学6年生のとき、外国人の方に
英語で観光ガイドを行いました。何ヶ
月も準備を重ねて、グループごとに
石舞台古墳や牽牛子塚古墳を案内
しました。喜んでもらえて嬉しかったです。
分科会の成果は、毎年文化祭で発
表するんですが、最後に村長への提
言というコーナーもあるんです(笑)。
明日香学を学んだおかげで地元が
好きになりました。みんな優しいです。



明日香村稲渕大字総代
山本 浩さん

「奥飛鳥」と呼ばれる明日香村稲渕は、日本
の棚田百選の一つ「稲渕の棚田」が有名な
風光明媚な地。山本浩さんは、この地で生ま
れ育ち、2025年から総代を務めています。



飛鳥川に架けられる男綱

奥飛鳥の
神事を
次世代につなぐ
稲渕という名
のとおり、昔か
ら村のほとんどの
人が稲作をして
きました。
棚田は、見る
ぶんにはきれい
ですが、管理が
大変。耕地が狭
くて機械が入ら
ないから手で植えないといけない。雨
が降ったら上から下へと水が勢いよく
流れて、土手が崩れることも。でも、
棚田米はおいしいんです。水が常に循
環しているから、株が元気に育つ。特
に新米は冷めてもおいしい。おにぎり

にするとよくわかるんです。
稲渕には昔から受け継がれてきた
「綱掛神事」があります。成人の日、
男性のシンボルを表す男綱を飛鳥川
にかけ、子孫繁栄や五穀豊穡を祈る
神事です。男綱は災いなどが村に入っ
てこないようにする結果で、当日の朝
から約50mの縄を編み上げます。シ
ンボルの作り方を知っているのは総代、
副総代、会計の三役だけ。3人で作っ
て、次の三役に継承していくんです。
世界遺産に登録されて思うのは、
駐車場や道路のこと。自転車であら
れる人も多いので、安全に走れるよう
にそのあたりの対策も必要かなと思
います。



10月には約240万本のコスモスが咲きます。

きれいの裏には努力があります

藤原宮跡整備協力委員会とは
藤原宮跡内の醍醐町・縄手町・別所
町・高殿町・木之本町の5つの自治会
で構成。宮跡での花園植栽や周辺の
草刈りなどの環境整備及び美化活動
を行っています。2006年発足、今年
20年を迎えます。

「集客のために何か名物を作ろう」
という声が地元であがり、藤原宮跡
に花を植えることになったんです。そ
れが20年前。春は菜の花、夏は蓮、
秋はコスモスを植栽することになりま
した。みんな、きれいって喜んでくれ
て嬉しいけど、きれいの裏には努力が
あるんです。花が咲いていないときも
毎日草刈りして整備しています。
以前、先生から聞いた話で、子供
が「大人がコスモスの花ちぎってばっか」

藤原宮跡整備協力委員会
委員長 西嶋 正美さん
藤原宮跡といえば、四季
折々の花が咲く名所。その美
しい花を毎年咲かせている
のは、藤原宮跡周辺に住む
藤原宮跡整備協力委員会
の人たちです。委員長の西
嶋さんは、日々愛車に乗って
整備を行っています。



かわいそうや」と言ってた。そんな
ふうに大切に思ってくれるならと、鴨
公小学校の子供たちにコスモスの種を
植えてもらいました。育てる経験を
通して、ここに住んでよかったと思っ
てもらえたらなと。
世界遺産になったことで、大勢の人
が押し寄せ、地元には迷惑がかかるか
もしれない。だから行政側から言わ
れることをただ受けるだけじゃなく
て、体話をしていきたい。対話の中
に小さな気づき、大きな成果がある
んです。やらない努力よりやる努力。
橿原市・文化庁・地元、みんなの努
力があつてこそ守れると思います。



飛鳥ファンの期待に応えたい

cafe ことだま
加藤 準一さん
典子さん

明日香村で大人気の「cafe
ことだま」を営む加藤さんご
夫妻。青森出身で東京に
住だった準一さんと岡山出
身の典子さんは、ともに古
代史好きで明日香村で出
会い、結婚。飛鳥を愛する
移住者。



加藤 準一さん
聖徳太子が好きで、2000年に
古代史をテーマにしたホームページを
立ち上げて、月1回以上東京から飛
鳥に通い、情報を発信していました。
その後結婚して2006年に明日香
村に移住し、カフェを始めました。カ
フェを初めて今年で20年になるん
ですが、世界遺産登録の歩みとかぶってま
すね(笑)。世界遺産に登録されたこ
とで、観光客だけじゃなくて、飛鳥の
ファンや、一緒になって盛り上げてく
れる人が増えてくれたら嬉しいんです。

加藤 典子さん
大学の時から古代史を学んでいて、
年に数回、飛鳥に来ていました。当
時パソコンで「飛鳥」と検索したら準
一さんのホームページが出てきて(笑)。
その後共通の知り合いの誘いで、準一
さんと会ったんです。こうやって20年
間住み続けていられるのは、本当にあ
りがたいことです。
世界遺産になって、飛鳥に初めて来
る人たちに、お店としてがっかりさせ
ずに帰ってもらえるよう、これからも
がんばります！

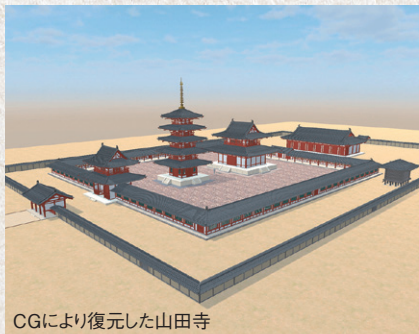
特別史跡山田寺跡と 蘇我倉山田石川麻呂

創建者である蘇我倉山田石川麻呂

奈良県桜井市山田にある「特別史跡山田寺跡」。その北端に静かにたたずむお堂の傍らには、「右大臣山田公雪冤碑」が建つ。

「雪冤」とは、無実の罪をそそぐこと。この碑は、641年に山田寺を創建した蘇我倉山田石川麻呂の末裔を名乗る越前国の山田重貞が、先祖の名誉回復のため幕末の天保12年（1841）に建てたものである。そこに刻まれているのは、中大兄皇子に対する謀反の疑いをかけられ、悲劇的な最期を遂げた石川麻呂の姿である。碑文は歴史家・穂井田忠友が撰し、文字は「幕末の三筆」

上空からみた山田寺跡
写真提供：世界遺産「飛鳥・藤原」協議会



CGにより復元した山田寺
資料所蔵：桜井市教育委員会
監修：大脇 潔・箱崎和久
CG復元制作：株式会社フジヤ

の一人、貫名海屋が筆を執ったといわれている。石川麻呂は蘇我馬子の孫にあたり、当時の政権中枢を担った蘇我蝦夷は叔父にあたる。蘇我氏一族でありながら、大化の改新の前夜に起きた蘇我入鹿暗殺事件（乙巳の変）では中大兄皇子（のちの天智天皇）側に味方し、大化の改新では右大臣として政権を支えた。しかし、一族である蘇我日向の裏切りにあい、謀反の濡れ衣を着せられる。石川麻呂は長子である興志とともに造営中の山田寺にこもり、抗戦を主張する興志を制して身の潔白を証明するため金堂で自害した。のちに無実が証明されると、彼の孫である鸕野讃良皇女（のちの持統天皇）が中心となって山田寺の造営を引き継ぎ、685年に巨大な伽藍が完成する。その後は平安末期まで様々な文献に記されるが、鎌倉時代には大寺院としての姿を消した。

発掘調査で明らかにされた山田寺跡

山田寺が再び大きな脚光を浴びたのは、昭和50年代からの奈良文化財研究所による本格的な発掘調査である。伽藍の配置が次々と明らかにする中、最大の発見が「東面回廊」であった。土砂崩れにより倒壊した回廊が、奇跡的な条

件が重なって腐朽を免れ、当時の姿のまま地中から見つかった。この回廊は、現存最古の木造建築である法隆寺西院より約50年古いと考えられており、古代建築史に大きな影響を与えている。さらに、出土した瓦の研究から「金堂・回廊」↓「塔」↓「講堂」の順に造営されたことが判明している。これは『日本書紀』や『上宮聖徳法王帝説』裏書の記述と一致し、発掘調査によって証明される稀有な例となった。

山田寺の魅力

かつて平安時代に藤原道長が参詣し、その美しさを「奇異莊嚴（この世のものとは思えないほど素晴らしい）」と称賛した山田寺。創建者の悲劇を乗り越え、天皇家によって完成された大寺院は、文献に刻まれ、廃絶したあとも、人々の記憶に残り、現代の発掘調査によって多くを知ることができる。

寺院の全容が明らかに、文献の記述も見事に裏付けられた古代寺院は他に例がなく、これこそが山田寺跡の最大の魅力である。石川麻呂の悲劇がありながらも、その祈りと造営は引き継がれ、私たちは今も様々な資料や遺構から、往時の姿を知ることができるのである。

桜井市教育委員会文化財課
丹羽 恵二

桜井市教育委員会文化財課副主幹。京都府立大学大学院博士前期課程修了。奈良県桜井市で、発掘調査や文化財普及活動に従事するとともに、世界遺産登録の推進に関わる。現在は経向学研究センターの所員として経向遺跡の整備や研究に携わっている。

飛鳥と『万葉集』
ゆかき
言の葉

藤原京遷都

藤原の大宮仕へ 生れつぐや
娘がともは ともしきろかも

（巻一・五三 作者未詳）

この歌は、藤原京遷都の際に詠まれたとされる長歌「藤原宮の御井の歌」（巻一・五二）の反歌です。「藤原の大宮」に仕えるために次々に生まれる少女たちは心惹かれることだ、と新しい時代の幕開けを言祝いでいます。

「藤原宮」は現代の皇居と国会議事堂とを合わせたような機能を持ち、藤原京の中心に位置していました。藤原京とは、現在の橿原市一帯に造営されていた、碁盤の目状に区画整理された日本最古の中国式の都城を指します。持統天皇8（694）年に飛鳥浄御原宮から遷され、元明天皇

奈良県立万葉文化館
井上さやか
博士（文学）。専門は『万葉集』を中心とした日本文学・日本文化。現在、奈良県立万葉文化館企画・研究係長。近著に『中西進と万葉画を楽しむ』（淡文社）など。



代の和銅3（710）年に平城京へ遷都するまでの16年間、藤原京は古代日本の政治や文化の中心地でした。

五二番の長歌には「荒たへの藤井が原」とあり、もとは植物のフジが群生していた場所だったことから「藤原」という地名が生まれたともいわれます。

「宮」は天皇や皇族の住居を指しますが、「京」は、宮のある場所というだけでなく、寺院や市、臣下らの居住地なども含む広い区域を指します。長歌には、当地が大和三山（香具山・畝傍山・耳成山）に囲まれた、都を造営するにふさわしい土地であることも表現されており、藤原京は、それまで日本に存在しなかった律令制に基づく中央集権国家という新しい概念の具現化であったといえます。

そんな古代東アジアの国づくりをいまに伝える遺跡として、「飛鳥・藤原の宮都」が世界文化遺産に登録されました。

過去問に挑戦！（第3回初級編の16-57問目）

飛鳥寺で最も古い創建瓦には
どこの国の影響が考えられるか？
ア.高句麗 イ.百済 ウ.新羅 エ.唐

保存問題により21世紀初めに
石槨が解体されたのはどの古墳か？
ア.キトラ古墳 イ.中尾山古墳
ウ.高松塚古墳 エ.牽牛子塚古墳

（※正解は古都飛鳥保存財団のHPをご覧ください。）

第4回
「飛鳥・藤原まると博物館」検定
令和8年12月12日（土）に開催。
初級編合格者は中級編、中級編合格者は上級編を受検できます。
（申込締切10/31）

これから受検される人に
アドバイスがあれば教えてください。
初級編から上級編まで、やはり基本は公式テキストにある気がします。苦手な分野も手を抜かずに読み込むことが最も大切だと感じています。

『飛鳥びと』の読者に
メッセージをお願いします。
この検定で、あらためて飛鳥の歴史・文化・自然について学ぶ機会をいただきました。学ぶことは「なぜ」って考えること。飛鳥の「なぜ」は、歴史や万葉集、自然の営みの中にも潜んでいます。たまには憂さを忘れて明日香風に吹かれてみませんか。

「飛鳥・藤原まると博物館」検定 合格への道

「上級編」1人目の合格者に聞く！

第3回検定で初めて実施された上級編に見事合格された橋本厚さん。
最高点を取って1人目の合格者となった橋本さんに、
検定にまつわるエピソードをお聞きました。



橋本厚さん。大阪府出身、奈良県在住。
「奈良まほろばソムリエの会」に所属し、講師なども務める。



左)上級編合格者に授与される八角形の合格記念メダル。
右)初級から上級の合格認定証。

メダル裏には名前と、合格者番号No.0001が刻印されています。

検定を受けようと思った
理由は何ですか？
奈良検定・大阪検定・京都検定・江戸文化歴史検定・神社検定と5つの検定に合格した「検定マニア」。最後にもう一つチャレンジしたいと受検しました。

検定に向けて
どんな勉強をしましたか？
公式テキストと、推薦図書は一通り目を通しました。ただ読むだけでなく覚える自信がなく、テキストをパソコンのエクセルに入力しながら覚えしました。上級編はマークシートではなく、すべて記述式のため、漢字や小論文を書く練習も行っていたので、年間計画をしっかりと立てて反復練習をしました。

上級編を受検された
感想を教えてください。
上級編は初実施のため、小論文の出題傾向がまったくわからない状態でした。予想外だったのは「斉明天皇と『万葉集』について」を説明する問題。恐らく受検された方全員が啞然とされたと思います（笑）。受検後は心の中で五分五分しかけたかな…という思いでしたが、合格通知が届いて最高点と書かれていたので本当にびっくりしました。